

若狭湾原発高リスク

都京
5/24
専門家ら指摘
原発政策批判も

参院委

東京電力福島第1原発事故を受け、参院行政監視委員会は23日、石橋克彦・神戸大名誉教授（地震学）や、小出裕章・京都大原子炉実験所助教ら4人を参考人として招き、原子力行政について討議した。石橋氏は若狭湾の原発の危険性を指摘、小出氏は原発推進政策を厳しく批判した。

石橋氏は、議員から浜岡原発（静岡県御前崎市）の次にリスクの高い原発を問われ、「若狭湾一帯」と答えた。「若狭湾一帯は、寛文地震（1662年）や福井地震（1948年）などが起きているが、地震の空白域がある。非常に危険である」とは間違いない」と指摘。大津波の危険性や、福島第1原発より古い美浜原発1号機（福井県美浜町）、敦賀原発1号機（同敦賀市）など老朽化も問題視した。

一方、小出氏は「破局的事故の可能性を無視してきた」とこれまでの原発政策を批判。今回の事故対応で「政府は一貫して事故を過小評価し、楽観的な見通しで行動した」とし、

放射線物質の拡散予測など情報公開の遅れも批判した。また、国が「核燃料サイクル」の柱と位置付けてきた高速増殖炉の例を挙げ、当初1980年代とされた実用化のめどが立たないのに、関係機関の間で責任の所在が明確でないとした。

（小川卓宏）

石橋氏は、議員から浜岡原発（静岡県御前崎市）の次にリスクの高い原発を問われ、「若狭湾一帯」と答えた。「若狭湾一帯は、寛文地震（1662年）や福井地震（1948年）などが起きているが、地震の空白域がある。非常に危険である」とは間違いない」と指摘。大津波の危険性や、福島第1原発より古い美